

**「シャーロック・ホームズの冒険」      コナン・ドイル著 延原謙訳      新潮社      1953年2月  
発行**

「シャーロック・ホームズの冒険」は、名探偵シャーロック・ホームズが数々の難事件を解決するシャーロック・ホームズ シリーズの短編集で、コナン・ドイルの言わずと知れた名作シリーズの一作です。アイリーン・アドラーとの対決を描く「ボヘミアの醜聞」や赤毛の男が加入した奇妙な組合のからくりを追う「赤髪組合」など10篇を収録しています。

シャーロック・ホームズシリーズは最初の長編で発表された第1、2作は人気が出ませんでした。しかし、産業革命以後に普及した鉄道での旅行中において、旅客をターゲットにした一話読み切り型の小説にすることで人気を博しました。また、探偵ものに必要なのは読者を驚かせるようなミスリードを含んだ展開ですが、そのきっかけになるものは当時の価値観と新たな価値観とのギャップだと言われています。特に、本作品に収録されている「ボヘミアの醜聞」に登場するアイリーン・アドラーを筆頭として、産業革命以降の女性進出が進んだ社会に起こる価値観の変化をコナン・ドイルは敏感に察知し、巧みに小説の中に落とし込んだと言われています。

不朽の名作ですが意外と読んだことある方も少ないかと思いますので、一度読んでみる価値のある作品です。また、英語の原典をあたって英語の勉強がてら読んでみるのも悪くないかもしれません。